



銅メダリストの伊藤智也さんと記念撮影

日頃の議員活動に、ご協力いただきありがとうございます。

8月8日、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。南海トラフ地震の想定震源域内での発生であ

ったため、気象庁は「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を初めて発表しました。国が公表したガイドラインにおいて、特に注意すべき期間とされた「地震発生から1週間」は経過しましたが、現在も南海トラフ地震のリスクがなくな

愛敬重之
 公式HP

<http://www.aikyo-kuwana.net/>



んには、家庭での「防災対策」を徹底いただきますようお願いいたします。さて9月は桑名市の2023年度の決算報告です。決算全体では、歳入総額926億7,839万円余、歳出総額887億9,121万円余となり、差し引き38億8,718万円余の黒字決算でした。今回の後援会だより78号では、9月の市議会定例会一般質問の報告を中心にさせていただきます。

スマートインターチェンジや多目的運動広場について質問

質問の内容と回答(2と3をメインに)

1. 自然災害時に避難しやすいまちづくりについて

東名阪自動車道法面を活用した緊急避難施設の重要度についての認識は

2. 大山田PAスマートインターチェンジの進捗と今後の展望等について

桑名北部東員線と関連した今後の整備予定は

7月末、会派で静岡県磐田市新磐田スマートインターチェンジを視察してきました。

当該スマートインターは、新東名高速道路の遠州森町スマートインターと浜松浜北インターチェンジ間に令和3年7月に供用された本線直結型として新東名高速道路では、初めてのものでした。

このスマートインターは、企業集積および雇用創出を目的として、ヤマハ発動機をはじめとする新平山工業団地直結のスマートインターとして、磐田市北部の玄関口として計画されたものです。

事業期間は平成25年に連結許可を得て、その後調査設計などを進め、平成30年度に本格的な工事着手を経て令和3年7月に供用に至ったと説明を受けました。

国や中日本高速との関係機関との調整に加え、用地取得などが要因となり当初計画通りでの用地取得が進まず、計画ならびに機関の変更などを行なったとの事であり、暫定供用と伺いました。職員の皆さんも大変苦勞されたようです。

しかしながら、この事業期間内においても新規の工業団地が完成し、着実の企業集積ならびに雇用創出の整備効果を上げているとのことでした。

本市においても、確固たる財政基盤の確立を目指し、伊藤市長が3期目の公約として進めてきた大山田PAでのスマートインターも磐田市同様の企業の集積および雇用創出などの整備効果を期待するとともに、それ以外にも多くの効果を私としても、大変期待しているので進捗および、今後の展望について伺います。



新磐田スマートインターチェンジ

●市の回答(抜粋)

現在の進捗状況ですが、昨年9月8日に国による準備段階調査箇所にて採択され、計画的かつ効率的な準備・検討を進めることを目的として、10月20日に第1回準備会を開催、そして、位置、構造、周辺道路の整備計画などの概略検討について協議を重ね、本年7月11日に地区協議会を開催し、連結許可に向け着実に進めているところです。

桑名北部東員線と関連した今後の整備予定については、必要な用地を地権者の皆さん方による組合施行として土地区画整理事業の計画区域内に含んでいることで、スムーズな用地取得を目指しています。スマートインターチェンジ事業と並行して、1次アクセス道路である都市計画道路桑名北部東員線についても、先行して2022年度より事業着手しており、今年度は、詳細設計および調査などを行なっています。

今後のまちづくりの展望については、スマートインターチェンジが整備されることにより、本市としては、企業誘致の促進、利便性の向上、交通の分散化による渋滞緩和を整備効果としてあげています。広域的な観点でも、近隣市町においても高速道路へのアクセス時間短縮に寄与することから、三重県北勢地域の経済産業の発展に加え、広域的避難や災害復旧経路の確保といった防災面でのストック効果も大いに期待するところです。今後は、このスマートインターチェンジならびに桑名北部東員線を中心に、更なる企業誘致を進め、新たな雇用の創出とともに定住人口の増加につなげることで、確固たる財政基盤の確立を図ることで、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えています。**※9月6日に国より新規事業化として承認されました！**

3.総合運動公園多目的運動広場の舗装について 2026年度の改修時に第4種公認を目指す考えは

7月の広報くわなでも「スポーツの力で、くわなをもっとおもしろく。地域とともに育むスポーツの未来」とありました。三重県に目を向けると、記録が公認として認められる競技場の数は全国では下から数えて3番目。東海地区に限定するともっとも少ないです。桑名地区については、以前、東員町に公認陸上競技場がありましたが、現在は公認記録が認められない競技場となりました。舗装事業が2026年に予定をされていたので再度お伺いします。

●市の回答(抜粋)

三重県内の公認競技場につきましては5施設と全国的に見ても少なく、そのうち2施設は北勢地区にあります。桑名地区に焦点を当てると、施設がないというのが現状です。他の自治体に目を向けると、公認の陸上競技場で、一般利用者に無料開放している施設もあります。しかしながら、そのほとんどが、陸上競技専用の競技場として整備され、決められた日や時間帯を無料で利用できるというものであり、陸上競技者のための施設となっています。これらの状況を踏まえて、4種公認を目指していくのか、についてですが、NTN総合運動公園多目的運動広場を公認競技場として同様に運営していくにあたり、トラック部を隔離するフェンスや、競技に使用する道具をしまうための倉庫などの施設整備の検討が必要となります。公認取得については、桑名地区の陸上競技の実情や他の事例を参考にしながら慎重に判断をしています。

大山田パーキングエリア ドローン写真



大山田PAスマートインターチェンジ(仮称) イメージ図



*本図は、イメージパースであり変更する場合があります。

